

運動に親しみ、健康に留意して、継続して体力アップに励む国見っ子の育成

大分県国東市立国見小学校

全校児童数	69名		
全クラス数	7	教職員数	22名
体育専科教員訪問学校数			3校
訪問校	安岐小学校、安岐中央小学校、志成学園		
体育専科教員名		宮川 洋	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

◆体力・運動能力調査結果に次の弱点領域がある。

- ・50m 走 ・長座体前屈 ・立ち幅跳び
- ・反復横跳び

◆運動への愛好度の肯定的回答は 65.7%で「好き」の割合が県平均より 0.3 ポイント低い昨年より 9 ポイントアップした。

- ・ゲーム要素を取り入れる。

2 取組の計画

- ①体育科授業の充実
- ②1校1実践の取組の改善と充実
- ③市内小学校への訪問指導における指導助言
- ④体力向上プランの作成・実践・検証
- ⑤体力向上に向けて中学校と連携しキャリア教育を兼ねた取組

Do：実践内容

1 体育授業の充実

(1)授業の流れのスケジュール化

サーキットをスタートとして、準備運動・主運動につながる運動・主運動・振り返りまでを提示して1時間の見通しを持たせた。運動量や助け合い活動の向上へつながる取組が進んできた。

単元の初めに、単元全体の流れを示し、めあてを持って授業に取り組みやすいようにした。

(2)解決意欲を促す課題設定

子どもが意欲的に取り組めそうな単元配列や教材の選定を心掛けた。また、子どもの実態に応じた適切な課題を設定した。

2 1校1実践の取組の改善と充実に向けて

子どもたちが自ら進んで取り組めるように、学期毎に変化を持たせた。安全に効率的にできるように配置を改善した。GTの活用を活用した。

- ・1学期 5種目のサーキットトレーニング
- ・2学期 持久走を中心に
- ・3学期 縄跳びを使った持久力の強化とサーキットトレーニング

3 市内小学校への訪問における指導助言

授業での動画を示しながら、適切なアドバイスのタイミングや子どもの動きのとらえ方、授業展開の見通しや、場の設定等を指導助言した。

体育授業において、日常の学習規律の大切さと授業中に指示が通る、授業に向かう姿勢の形成が大事ということを話した。

授業支援アプリ（ロイロノートスクール）での振り返りに使用するアンケート使用の具体的な方法やデジタル素材等について説明したり紹介したりした。

●工夫したこと

授業に入る前に担任と打ち合わせを行い、単元のプランを確認した。

体育専科教員が動きのコツをアドバイスするなど出番を決めてポイントを絞った指導に努めた。

全学年を通じて、子どもの活動時間（運動・助け合い）を確保するための授業の流れを決めた。また、教材教具等の授業の場づくりのための準備や片付けの省力化のためにできる限り単元をそろえた。

運動量を確保しつつ、学び合う場の活動時間を設け、子どもの意欲の持続を図った。

タブレットを授業に導入することができた。有効活用のために日常的に、他教科でも使用頻度をあげることが望まれる。

Check：取組の成果

多くの単元で子どもが意欲的に取り組むことができた。そのことで運動量確保につながった。

運動が苦手な子どもも、小さな成功体験を積むことができ、意欲向上につながることができた。

学級担任が授業内容を専科教員と一緒に考えることで安心して授業に臨むことができた。

前年度の学習内容をサーチし、教育課程を計画的に進めることができた。

支援を要する子どもへの指導ができることで、子どもの意欲向上につながった。

訪問校の若手教員の指導を中心に、各学校の教具の確認や体育主任にアドバイスができ、授業力向上に役に立つことができた。

Action：今後の課題

運動への愛好度を増す手立てとしての、1校1実践のあり方タブレットの効率的な有効活用の工夫

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

単元における、学習過程や場の工夫をすることによって、進んで学習に向かう姿勢や、友だちのがんばりを認め合う、姿が多く見られるようになってきた。



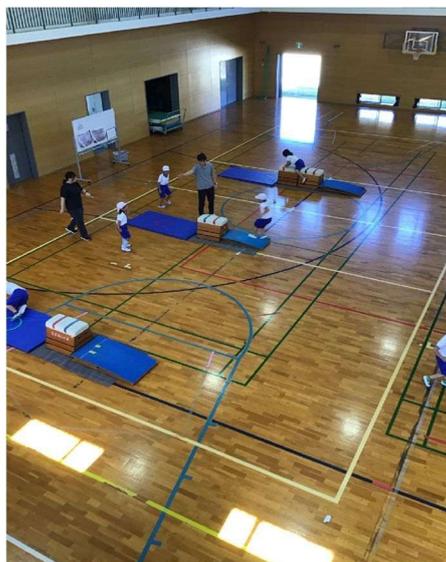
(2年生「跳び箱遊び」)



(6年生「バスケットボール」) グループで課題を確認



(2年生「跳び箱遊び」) グループで課題確認



(2年生「跳び箱遊び」) 場の確認



(「チャージタイムでGTの指導」) 小中の体育的連携の取組